

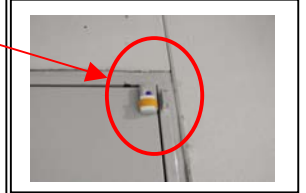
【タイトル】 階段昇降時における安全意識向上の見える化

改善後

昇る人から見た通行方向の矢印と色別標示と注意標示



階段上の扉部にマグネットセンサー式ドアチャイムを取付



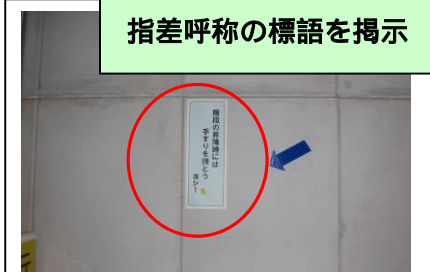
降りる人から見える場所へ注意標示



降りる人から見える中央線標示



指差呼称の標語を掲示



説明: 施設内の階段において、転落危険リスクの低減を目的に各種の注意標示をして、安全意識の向上と危険リスクの低減を図った。

昇り方向と降り方向を色分けや矢印標示により明確に判別できる表示にした。

「手摺りを持つ」「右側通行」などの注意標示を昇降どちらからでも目に留まる位置に表示。

日ごろ安全唱和で使用している階段昇降時に関する安全標語を掲示することで意識付け。

ドアチャイムにより1cm扉が開くとアラームを鳴動させて、階段側の昇降者にすばやく危険を知らせることができ、危険リスクの低減を図った。

(効果)

標示を大きく見える化し、階段の中央部を通行することなく、端に寄って通行することを促すことにより、手摺りを持つ意識をする行動ができるようになった。

改善前

説明: 階段の昇り降りに特別なルールが無く、各自が自由に昇降しているので、階段から転落する危険リスクがあった。

施設内の他の階段において、転落負傷災害が発生しており、当該の階段にも危険リスクが潜在していた。

着眼点

- ・手摺りがあるのになぜ持つ人が少ないのか？(不安全)
- ・上部は片側しか手摺りがないので、右側を昇る人の割合が多い(手摺り側)